

◆三菱商事株式会社

【創立】 昭和29年7月1日（設立1950年4月1日）

【資本金】 2,044億4,700万円

【主な事業概要】

国内および海外約90カ国に200超の拠点をもち、
600社を超える連結対象会社と共にビジネスを展開
する最大の総合商社

【売上高過去3期分(連結)】

令和3年3月期 12兆8,845億2,100万円

令和2年3月期 14兆7,797億3,400万円

平成31年3月期 16兆1,037億6,300万円

【当期経営状況】

2019から2021年まで三期連続減収減益

売上16.1兆円⇒14.7兆円⇒12.8兆円

経利8,518億円⇒6,488億円⇒2,535億円

商社業界2016年から4年間トップ

2020年から伊藤忠商事がトップ→業界4位に転落

資源分野への依存体質から再生可能エネルギー等の
脱炭素企業への転身が急務。

三菱商事

<財務力>

自己資本を上回る固定負債があるのでやや不安

自己資本比率 35.1% < (標準40%)

財務センターラインはやや右上がりなので、標準的財務内容
当座比率92.4% < (標準100%)なので、キャッシュフロー
の改善が必要か

<収益力>

収益力 標準 経営負担率 84.2% < (標準90%)

収益効率 標準以下

売上高経常利益率 2.0% > (標準4~5%)

<キャッシュフローの特徴>

営業CFは1兆175億円あり、フリーCFも6602億円あるが
借入返済が9129億円あり、最終的には49億円のマイナスと
なり、キャッシュフローの改善が必要

《ポイント》

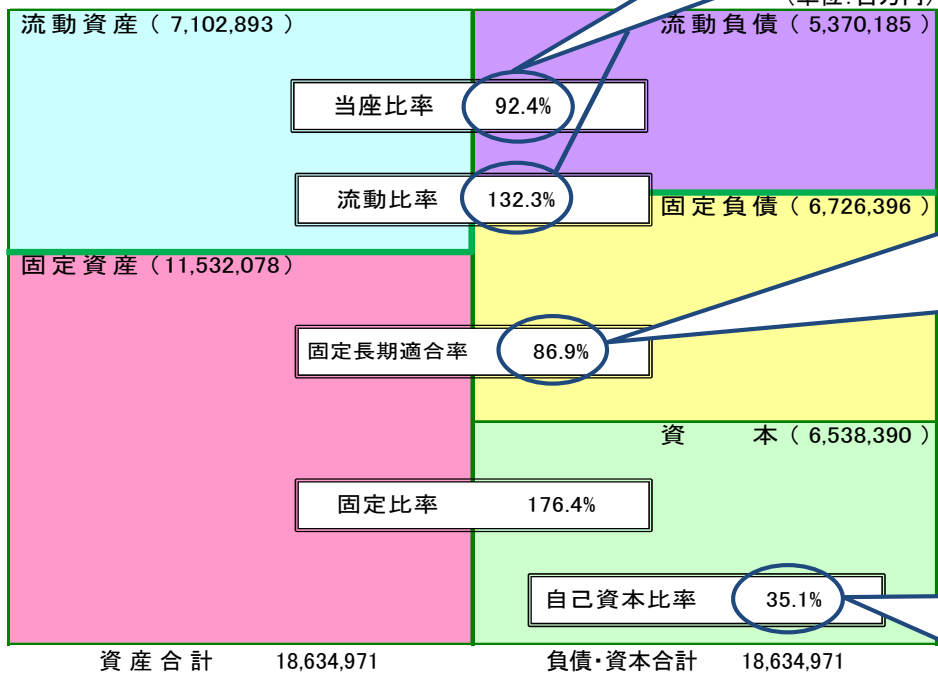
収益力は抜群であったが陰りがみえる。

財務健全性も標準以下となった。

借入金の返済が進み、自己資本比率を40%以上にすることが
今後の課題である。

R3/3月期

貸借対照表

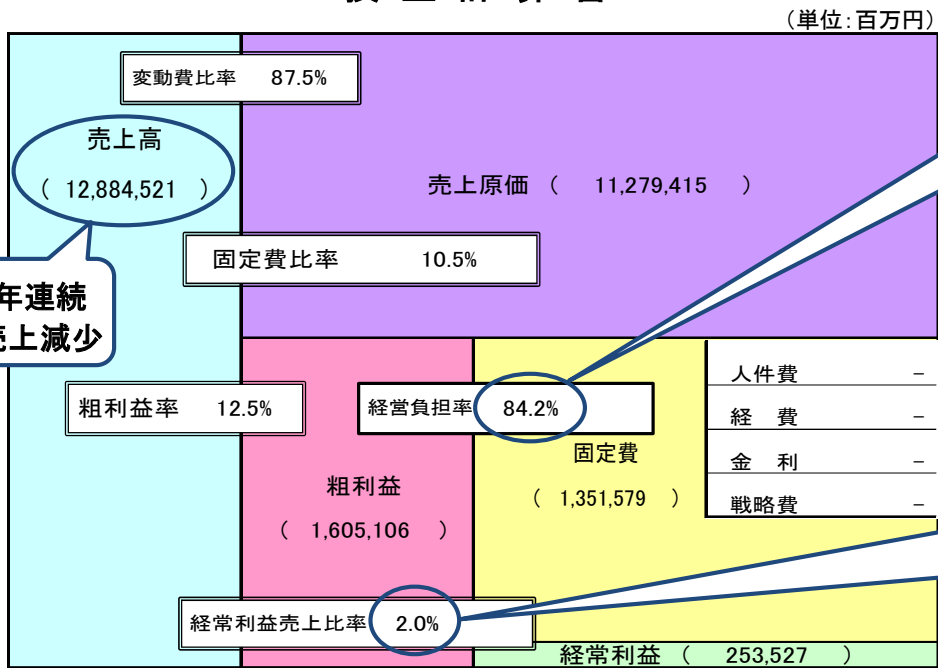


支払能力 やや不安
 当座比率92.4% (標準100%)
 流動比率132.3% (標準120%)

ここがポイント
財務安定性 良
 財務センターライン やや右寄り
 固定長期適合率 86.9% (標準100%)

健全性 やや不安
 自己資本比率35.1% (標準40%)

損益計算書



3年連続
売上減少

収益力 良
 経営負担率 84.2% (標準 90%)

収益効率性 不安
 経常利益売上比率 2.0% (標準4~5%)

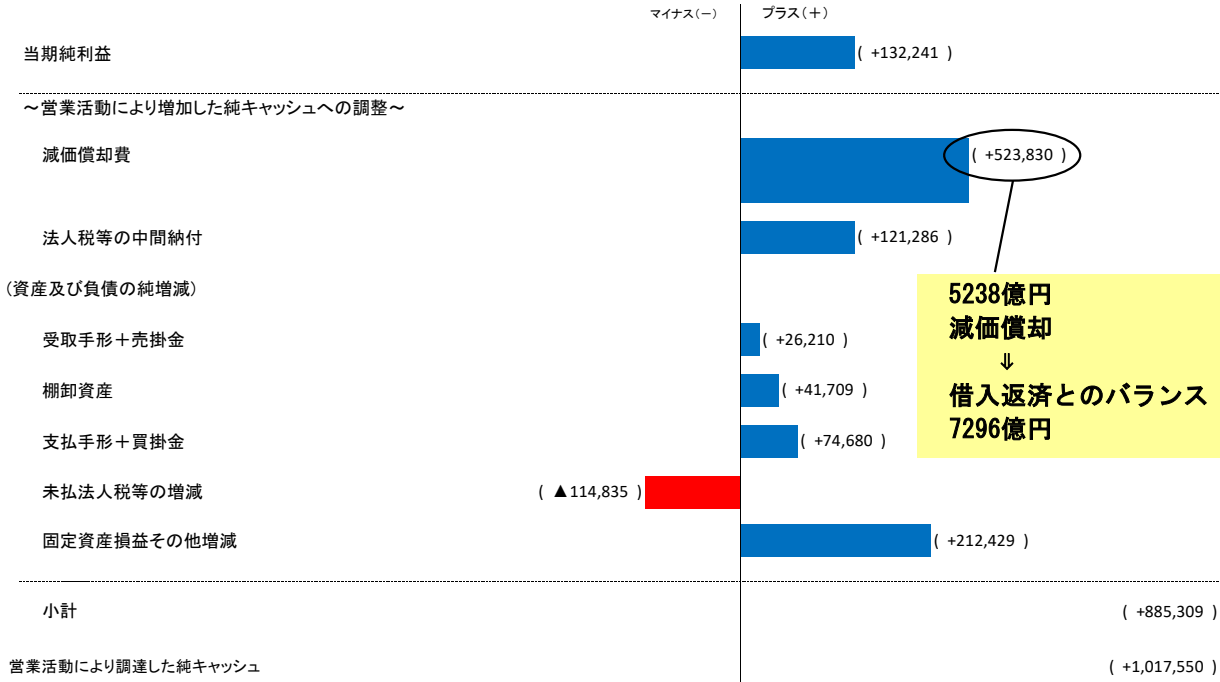
～キャッシュフロー計算書～

三菱商事株式会社

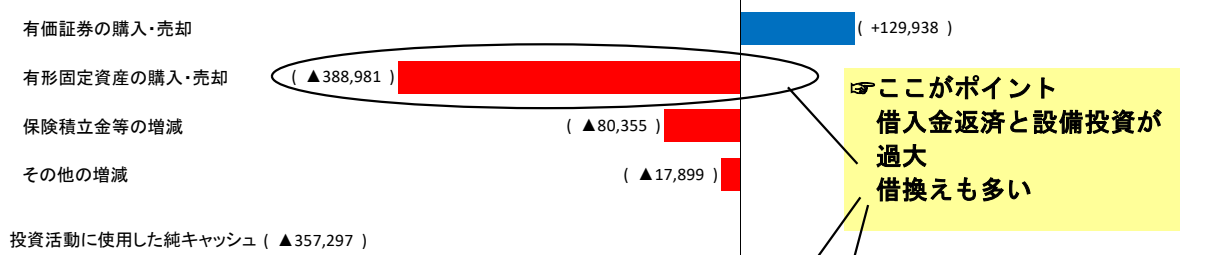
期間 2年4月 1日 ～ 3年3月 末日

(単位 百万円)

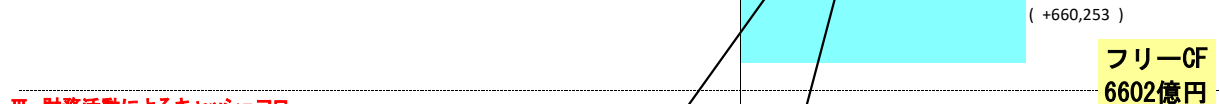
I 営業活動によるキャッシュフロー



II 投資活動によるキャッシュフロー



I + II フリーキャッシュフロー(純現金収支)



III 財務活動によるキャッシュフロー



IV 現預金の増減(VI - V)

49億円の
マイナス (▲4,988)

V 現預金「期首」残高

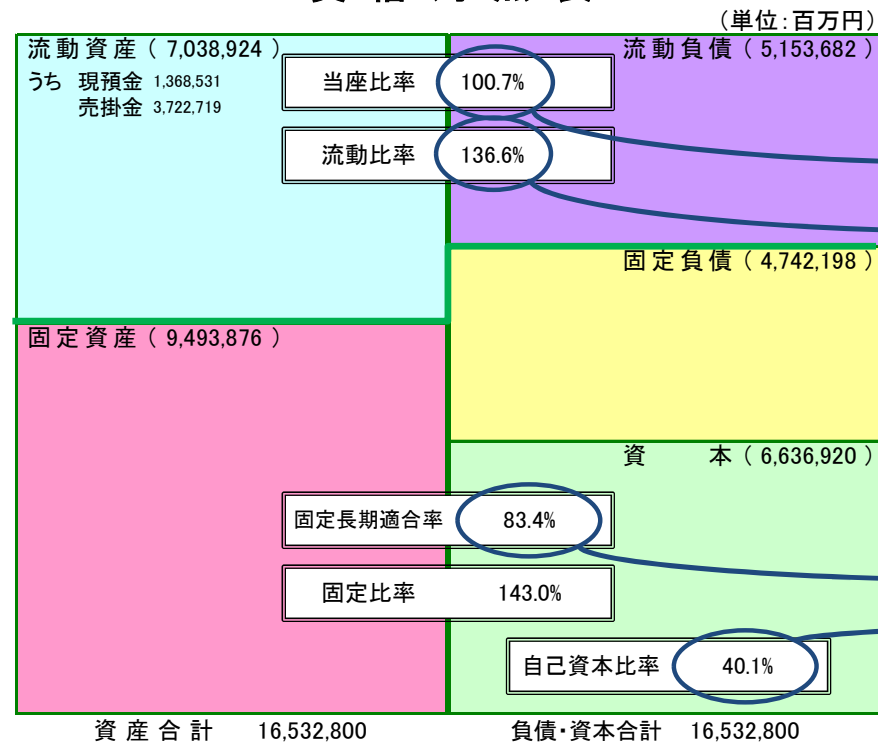


VI 現預金「期末」残高



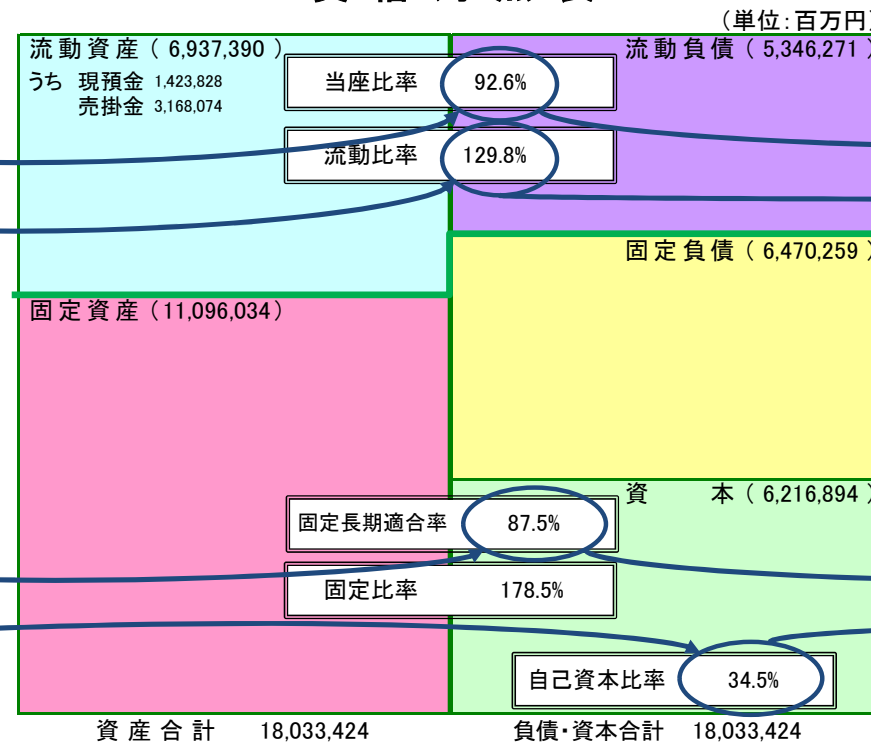
H31/3月期

貸借対照表



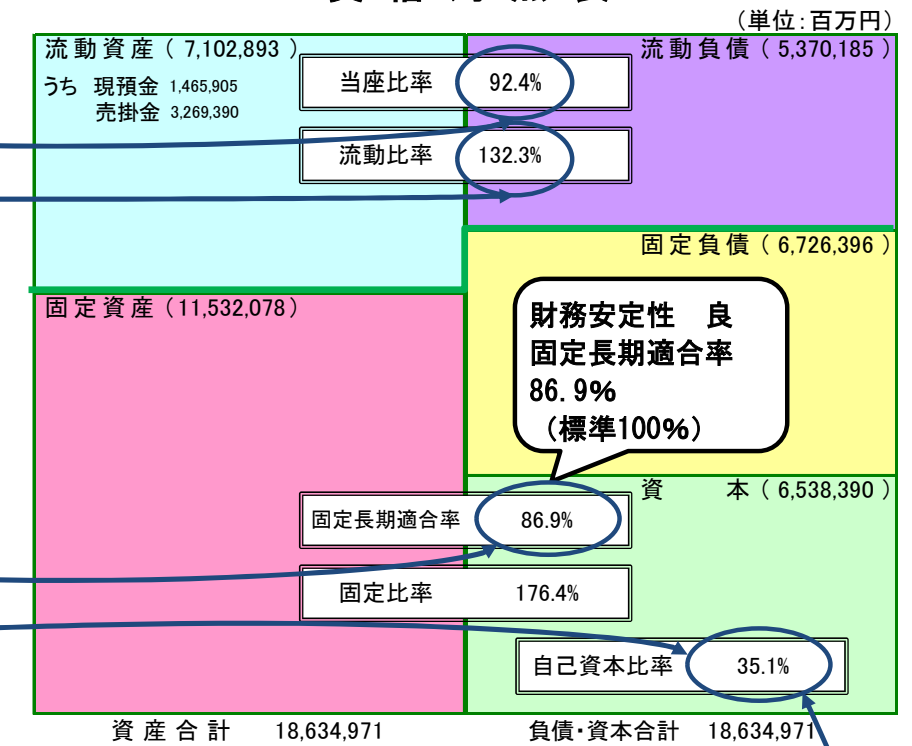
R2/3月期

貸借対照表



R3/3月期

貸借対照表

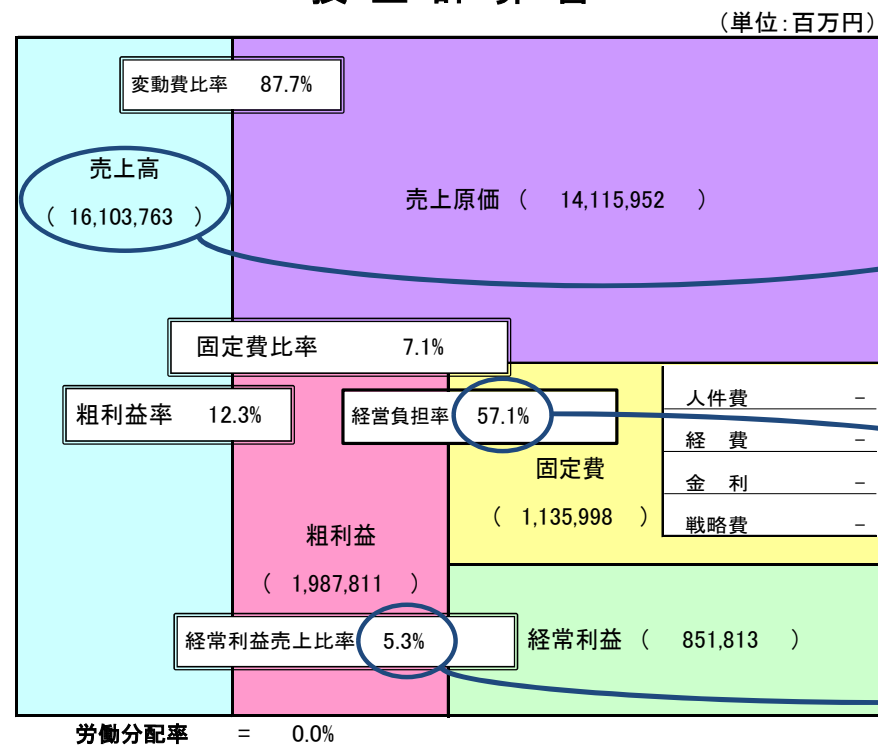


支払能力 やや不安
当座比率92.4% (標準100%)
流動比率132.3% (標準120%)

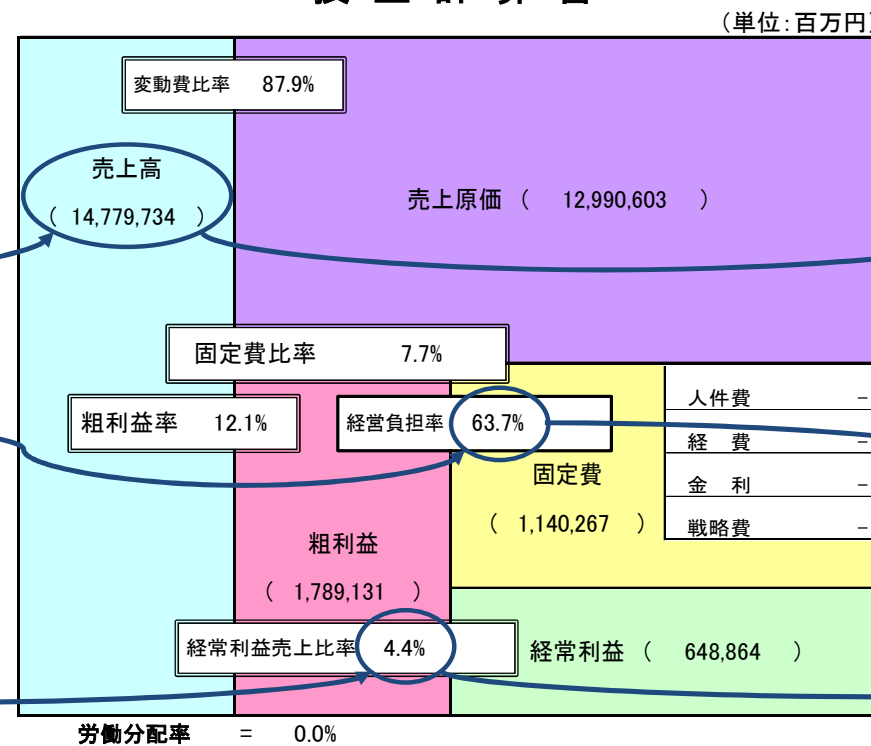
財務安定性 良
固定長期適合率
86.9% (標準100%)

健全性 やや不安
自己資本比率35.1% (標準40%)

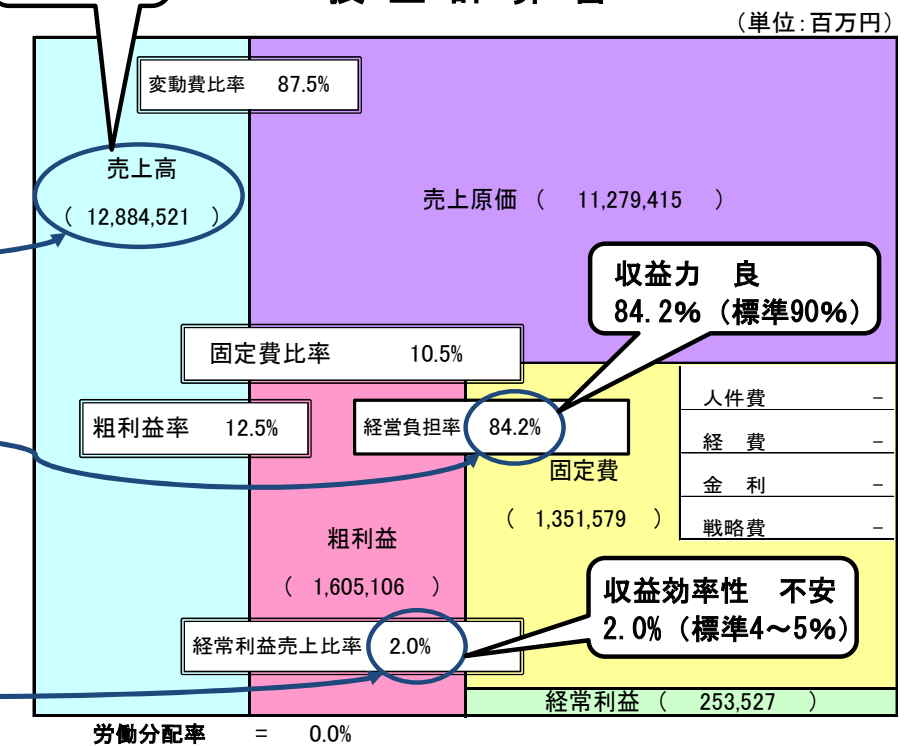
損益計算書



損益計算書



損益計算書



3年連続
売上減少

収益力 良
84.2% (標準90%)

収益効率性 不安
2.0% (標準4~5%)